北見市における景気動向調査報告書

＜ 第 Ⅱ 四 半 期 ＞

北 見 商 工 会 議 所

Ⅰ．調 査 要 領

１．調査時点及び調査対象期間

（１）調 査 期 間　令和８年１０月２３日

（２）調査対象期間　令和８年７月～９月期実績および令和８年１０月～１２月期見通しについて調査した。

２．調　　査　　対　　象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の５業種１５０社をインターネット（Google forms）、FAX により調査した。

３．回　　収　　状　　況

企業数／業種	対象企業数	回答企業数	回 答 率
製 造 業	３０社	２３社	７６．７％
建 設 業	３０社	２４社	８０．０％
卸 売 業	３０社	２３社	７６．７％
小 売 業	３５社	２３社	６５．７％
サービス業	２５社	１５社	６０．０％
合　　計	１５０社	１０８社	７２．０％

注）本調査結果の中で、Ｄ・Ｉ値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

Ⅱ．概　　況

《全体の動き》

令和８年度第Ⅱ四半期<７月～９月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」２３．１％、「悪化企業」５０．９％、「好転」から「悪化」を差し引いたＤ・Ｉ値は△２７．８となっています。

前年同期（△１．８）との比較では２６．０ポイントの大幅な悪化を示しました。また、前期調査<令和８年度第Ｉ四半期>と比較してみると前回△１９．２→今回△２７．８と８．６ポイントの悪化を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業Ｄ・Ｉ値△２６．１、建設業Ｄ・Ｉ値△８．４、卸売業Ｄ・Ｉ値△３０．４、小売業Ｄ・Ｉ値△３４．８、サービス業Ｄ・Ｉ値△４６．７となっており、前年同期調査と比較すると、サービス業が６４．４ポイント、小売業が４３．２ポイント、製造業で２１．５ポイント、卸売業で１１．３ポイント、建設業で１．３ポイントと全ての業種で悪化しました。

来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」２５．０％、「悪化企業」４３．５％でＤ・Ｉ値△１８．５と、前年同期見通し（△２７．７）に比べ９．２ポイント改善する来期見通しとなっています。

《業種別の動き》

1）製　造　業

生　産　高

前年比で「増加企業」２１．７％、「減少企業」５６．５％、Ｄ・Ｉ値△３４．８と前年同期（０．０）に比べ△３４．８ポイントの大幅な悪化となりました。

採　　算

前年比で「好転企業」２１．７％、「悪化企業」５２．２％、Ｄ・Ｉ値△３０．５と前年同期（△１４．３）に比べ１６．２ポイントの悪化となりました。

来期見通し

業況Ｄ・Ｉ値△３４．８（前年同期△２７．３）、生産高△２６．１（同△２３．８）、資金繰り△１３．０（同△１３．６）と、前年同期に比べ、資金繰りのみわずかな改善の来期見通しとなりました。



	6'9	6'12	7'3	7'6	7'9	7'12	8'3	8'6	8'9
業況	△ 23	△ 16	△ 27	△ 5	△ 4	△ 34	△ 12	△ 37	△ 26
生産高	△ 34	△ 25	△ 23	△ 25	0	△ 32	△ 8	△ 25	△ 34
採算	△ 15	△ 25	△ 4	△ 5	△ 14	△ 20	△ 40	△ 37	△ 30
資金繰	△ 19	△ 20	△ 18	△ 30	△ 13	△ 26	△ 28	△ 37	△ 21
在庫	11	12	22	15	0	11	△ 4	△ 4	4



	6'9	6'12	7'3	7'6	7'9	7'12	8'3	8'6	8'9
業況	△ 23	△ 32	△ 18	△ 5	△ 27	△ 38	△ 24	△ 33	△ 34
生産高	△ 19	△ 20	△ 14	△ 10	△ 23	△ 46	△ 20	△ 33	△ 26
資金繰	△ 23	△ 24	△ 22	△ 40	△ 13	△ 28	△ 20	△ 29	△ 13

2）建　設　業

完成工事高

前年比で「増加企業」３７．５％、「減少企業」４５．８％、Ｄ・Ｉ値△８．３と、前年同期（１４．３）に比べ２２．６ポイントの大幅な悪化となり、Ｄ・Ｉ値がプラスからマイナスに転じました。

採　　算

前年比で「好転企業」２５．０％、「悪化企業」４１．７％、Ｄ・Ｉ値△１６．７と、前年同期（△１７．８）に比べ１．１ポイントのわずかな改善となりました。

来期見通し

業況Ｄ・Ｉ値△１６．６（前年同期△３９．３）、完成工事高△２０．８（同△３５．８）、資金繰り△４．２（同△２８．６）と前年同期に比べ、全ての項目で改善の来期見通しとなりました。



	6'9	6'12	7'3	7'6	7'9	7'12	8'3	8'6	8'9
業況	△11	△4	△20	△13	△7	△11	3	△14	△8
完成工事高	△15	△9	△12	0	14	7	19	△25	△8
採算	△7	△13	△34	△26	△17	△14	15	△28	△16
資金繰	△7	4	△25	△13	△17	△11	3	△7	8



	6'9	6'12	7'3	7'6	7'9	7'12	8'3	8'6	8'9
業況	△19	△27	△33	△34	△39	△14	△19	△17	△16
完成工事高	△19	△36	△41	△30	△35	△11	△26	△25	△20
資金繰	△3	△13	△16	△17	△28	△14	△3	△14	△4

3）卸　売　業

売　上　高

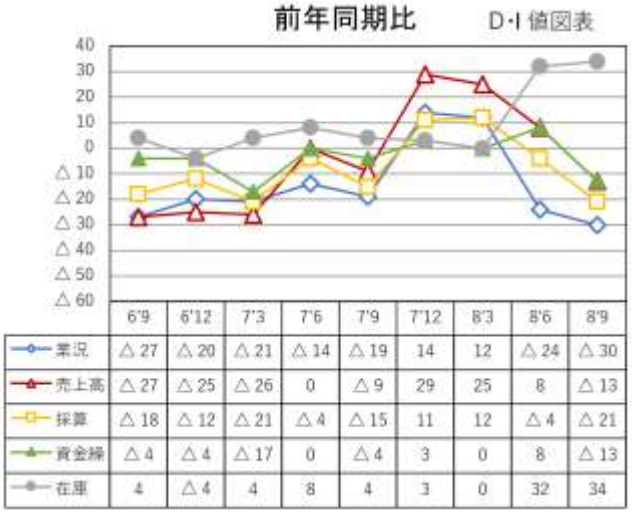
前年比で「増加企業」３０．４％、「減少企業」４３．５％、Ｄ・Ｉ値△１３．１と前年同期（△９．５）と比べ３．６ポイントの悪化となりました。

採　　算

前年比で「好転企業」２１．７％、「悪化企業」４３．５％、Ｄ・Ｉ値△２１．８と前年同期（△１５．０）に比べ６．８ポイントの悪化となりました。

来期見通し

業況Ｄ・Ｉ値△４．４（前年同期△３３．４）、売上高△１３．１（同△１９．１）、資金繰り４．３（同０．０）と前年同期に比べ、全ての項目で改善の来期見通しとなりました。



	6'9	6'12	7'3	7'6	7'9	7'12	8'3	8'6	8'9
業況	△27	△20	△21	△14	△19	14	12	△24	△30
売上高	△27	△25	△26	0	△9	29	25	8	△13
採算	△18	△12	△21	△4	△15	11	12	△4	△21
資金繰	△4	△4	△17	0	△4	3	0	8	△13
在庫	4	△4	4	8	4	3	0	32	34



	6'9	6'12	7'3	7'6	7'9	7'12	8'3	8'6	8'9
業況	△22	△20	△34	△28	△33	△22	△29	△20	△4
売上高	△18	△20	△21	△14	△19	△14	0	△20	△13
資金繰	△13	△16	△26	0	0	△7	△4	△12	4

4）小　売　業

売　上　高

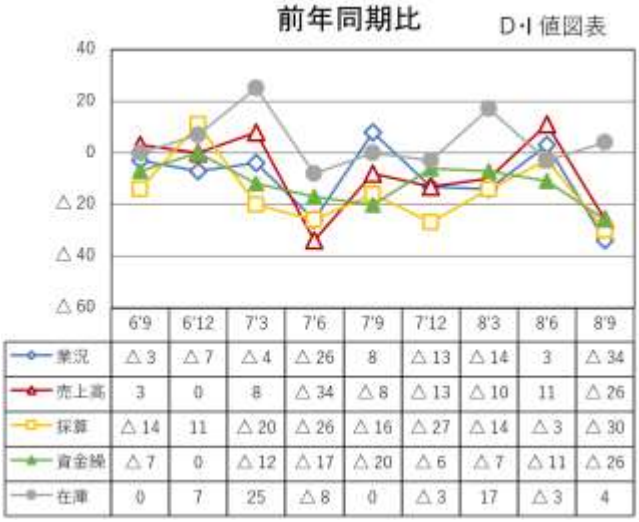
前年比で「増加企業」２１．７％「減少企業」４７．８％、Ｄ・Ｉ値△２６．１と前年同期（△８．３）に比べ１７．８ポイントの悪化となりました。

採　　算

前年比で「好転企業」１３．０％「悪化企業」４３．５％、Ｄ・Ｉ値△３０．５と前年同期（△１６．７）に比べ１３．８ポイントの悪化となりました。

来期見通し

業況Ｄ・Ｉ値△４．３（前年同期△８．３）、売上高０．０（同０．０）、資金繰り△８．７（同８．３）と前年同期に比べ、業況で改善、資金繰りでやや悪化の来期見通しとなりました。



	6'9	6'12	7'3	7'6	7'9	7'12	8'3	8'6	8'9
業況	△ 3	△ 7	△ 4	△ 26	8	△ 13	△ 14	3	△ 34
売上高	3	0	8	△ 34	△ 8	△ 13	△ 10	11	△ 26
採算	△ 14	11	△ 20	△ 26	△ 16	△ 27	△ 14	△ 3	△ 30
資金繰	△ 7	0	△ 12	△ 17	△ 20	△ 6	△ 7	△ 11	△ 26
在庫	0	7	25	△ 8	0	△ 3	17	△ 3	4



	6'9	6'12	7'3	7'6	7'9	7'12	8'3	8'6	8'9
業況	7	△ 11	25	0	△ 8	3	△ 3	△ 11	△ 4
売上高	3	3	25	17	0	△ 6	△ 3	△ 3	0
資金繰	△ 7	11	16	△ 4	8	10	10	△ 7	△ 8

5）サービス業

売　上　高

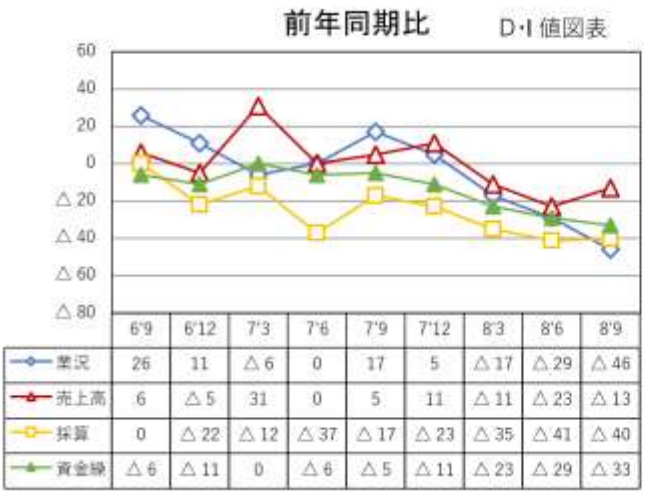
前年比で「増加企業」３３．３％、「減少企業」４６．７％、Ｄ・Ｉ値△１３．４と、前年同期（５．９）に比べ１９．３ポイント悪化となり、Ｄ・Ｉ値がプラスからマイナスに転じました。

採　　算

前年比で「好転企業」１３．３％、「悪化企業」５３．３％、Ｄ・Ｉ値△４０．０と前年同期（△１７．７）に比べ、２２．３ポイントの大幅な悪化となりました。

来期見通し

業況Ｄ・Ｉ値△４０．０（前年同期△２９．４）、売上高△３３．３（同△２３．５）、資金繰り△２０．０（同△５．９）と前年同期に比べ、全ての項目で悪化の来期見通しとなりました。

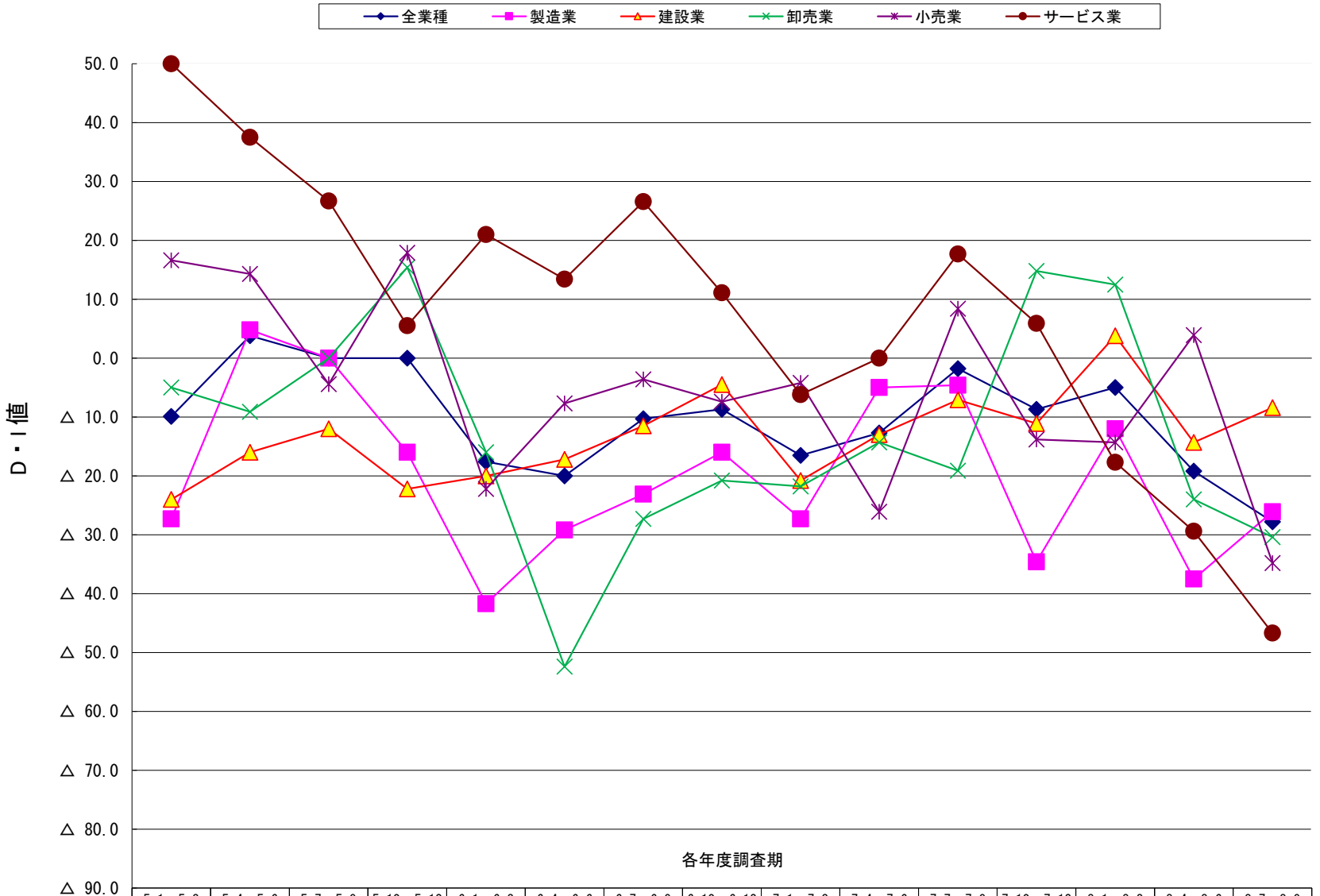


	6'9	6'12	7'3	7'6	7'9	7'12	8'3	8'6	8'9
業況	26	11	△ 6	0	17	5	△ 17	△ 29	△ 46
売上高	6	△ 5	31	0	5	11	△ 11	△ 23	△ 13
採算	0	△ 22	△ 12	△ 37	△ 17	△ 23	△ 35	△ 41	△ 40
資金繰	△ 6	△ 11	0	△ 6	△ 5	△ 11	△ 23	△ 29	△ 33



	6'9	6'12	7'3	7'6	7'9	7'12	8'3	8'6	8'9
業況	6	△ 33	△ 25	6	△ 29	△ 23	△ 17	△ 17	△ 40
売上高	6	△ 27	0	6	△ 23	△ 17	17	△ 23	△ 33
資金繰	△ 6	△ 16	△ 12	△ 6	△ 5	△ 17	△ 35	△ 23	△ 20

各年度調査期における業況（前年同期比）のＤ・Ｉ値の比較



	5.1～5.3 令和４年度 Ⅳ	5.4～5.6 令和５年度 Ⅰ	5.7～5.9 令和５年度 Ⅱ	5.10～5.12 令和５年度 Ⅲ	6.1～6.3 令和５年度 Ⅳ	6.4～6.6 令和６年度 Ⅰ	6.7～6.9 令和６年度 Ⅱ	6.10～6.12 令和６年度 Ⅲ	7.1～7.3 令和６年度 Ⅳ	7.4～7.6 令和７年度 Ⅰ	7.7～7.9 令和７年度 Ⅱ	7.10～7.12 令和７年度 Ⅲ	8.1～8.3 令和７年度 Ⅳ	8.4～8.6 令和８年度 Ⅰ	8.7～8.9 令和８年度 Ⅱ
全業種	△ 9.9	3.8	0.0	0.0	△ 17.6	△ 20.0	△ 10.3	△ 8.7	△ 16.5	△ 12.7	△ 1.8	△ 8.7	△ 5.0	△ 19.2	△ 27.8
製造業	△ 27.3	4.8	0.0	△ 16.0	△ 41.7	△ 29.2	△ 23.1	△ 16.0	△ 27.3	△ 5.0	△ 4.6	△ 34.6	△ 12.0	△ 37.5	△ 26.1
建設業	△ 24.0	△ 16.0	△ 12.0	△ 22.2	△ 20.0	△ 17.2	△ 11.5	△ 4.5	△ 20.8	△ 13.0	△ 7.1	△ 11.1	3.8	△ 14.3	△ 8.4
卸売業	△ 5.0	△ 9.1	0.0	15.4	△ 16.0	△ 52.4	△ 27.3	△ 20.8	△ 21.8	△ 14.3	△ 19.1	14.8	12.5	△ 24.0	△ 30.4
小売業	16.6	14.3	△ 4.4	17.9	△ 22.2	△ 7.7	△ 3.6	△ 7.4	△ 4.2	△ 26.1	8.4	△ 13.8	△ 14.3	3.9	△ 34.8
サービス業	50.0	37.5	26.7	5.5	21.0	13.4	26.6	11.1	△ 6.2	0.0	17.7	5.9	△ 17.7	△ 29.4	△ 46.7

業　種　別　　経　営　上　の　問　題　点

	1　位	2　位	3　位	4　位	5　位
製　造　業	諸　経　費　増	人　件　費　増	人　材　不　足	得　意　先　減　少	同業者間の競合
建　設　業	人　材　不　足	諸　経　費　増	人　件　費　増	得　意　先　減　少	同業者間の競合
卸　売　業	諸　経　費　増	人　材　不　足	人　件　費　増	得　意　先　減　少	同業者間の競合
小　売　業	諸　経　費　増	得　意　先　減　少	人　件　費　増	人　材　不　足	同業者間の競合
サービス業	諸　経　費　増	人　件　費　増	人　材　不　足	得　意　先　減　少	同業者間の競合
合　　計	諸　経　費　増	人　件　費　増	人　材　不　足	得　意　先　減　少	同業者間の競合

※ 問題点は、各業種とも３つ選択。

全業種でみると、１位「諸経費増」、２位「人件費増」、３位「人材不足」となっており、前年同期と比較すると、２位と３位の順位が入れ替わりました。

また、業種別でみると、製造業、卸売業、小売業、サービス業では「諸経費増」が１位、建設業では「人材不足」が１位となっており、各業種１位の問題点は前年同期と同様の結果となりました。

業　況

製造業　⇒　好転（麺類、農業用コンテナ、木製品、石材加工、農業用機械）
悪化（**建具**、**印刷**、菓子、弁当・惣菜、ビール、鋳物、石灰製品）

建設業　⇒　好転（測量・地質調査）
悪化（**舗装**、リフォーム）

卸売業　⇒　好転（**木材**、水産物、食肉、自動車ガラス）
悪化（業務用食品、米穀、作業服、家電、建築資材、包装資材、上下水道資材、医療機器、玩具、建築金物）

小売業　⇒　好転（**燃料**）
悪化（教材教具、青果、**食品**、**自動車**、靴、生花、火薬・銃砲）

サービス業　⇒　好転（クリーニング）
悪化（**ホテル**、写真、理美容、自動車賃貸、広告代理）

（※太字アンダーライン表示は重複該当業種）

その他及び具体的な業界の問題点等についての記載事項

【製造業】

○各種費用や人件費・原材料費が増加している。（他１件）
○ＤＸや生産性向上に取り組んでいるが、業種や事業規模によっては難しい。
○資材全般や電気料金の高騰により資金繰りが悪化している。北見市の財政難により仕事が激減している。
○原油・原材料価格の変動や入手状況による影響。

【建設業】

○原油・原材料価格の変動による影響。中東情勢の先行き不安による原材料価格の動向も懸念される。（他１件）
○金利上昇に伴い、個人の住宅購入意欲が減退している。材料費・外注費も高騰している。
○人件費の上昇による影響。
○働き方改革（就業環境の改善、多様な人材の活躍、生産性の向上等）への取組。（他２件）
○技術者をはじめとする人材の確保。（他１件）
○電線価格の高騰や資材納期による影響。
○冬季工事の減少。
○物価高による影響。

【卸売業】

○北見市の水道料金の高騰。
○原油・原材料価格の変動による影響。（他２件）
○コスト上昇分の価格転嫁への対応。価格転嫁が難しい状況にある。（他１件）

【小売業】

○店舗を持たない中小・零細の小売業者を取り巻く社会的・政策的な環境が厳しくなっている。
○地方経済の低迷と物価高騰が続き、購買意欲が低下している。
○原油・原材料価格の変動による影響。（他１件）
○最低賃金が上昇し、業績もあまり良くないため、人材が不足する中でも、やり繰りを工夫して対応している。

【サービス業】

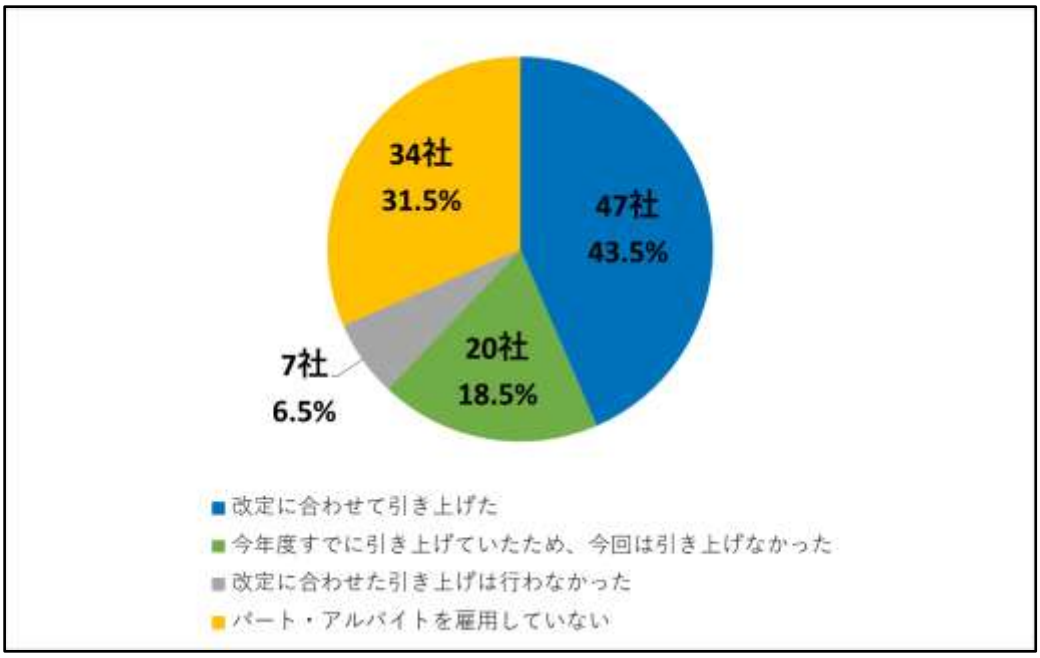
○コロナ禍以降、市内企業の販売促進費が削減されている。

付帯調査

2026年10月最低賃金改定に伴う賃上げ調査

エネルギー価格や原材料価格の高騰など、中小企業を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。こうした中、２０２６年１０月に北海道最低賃金が１，１３１円に引き上げられました。当所では市内事業者を対象に、インターネット（Google Forms）、FAXにより「最低賃金改定に伴う賃上げ」に関する実態調査を実施しました。【２０２６年１０月、回答１０８社】

■ 最低賃金改定に伴うパート・アルバイトの賃上げ状況



■ パート・アルバイトの時間あたりの賃金引き上げ額

引き上げ額	回答件数	割合
55円以下	18	38.3%
56円（最低賃金の引き上げ額と同額）	16	34.0%
57円～100円	13	27.7%
101円以上	0	0.0%
合計	47	100%

■ 賃金引き上げのために実施した対応　※複数回答可

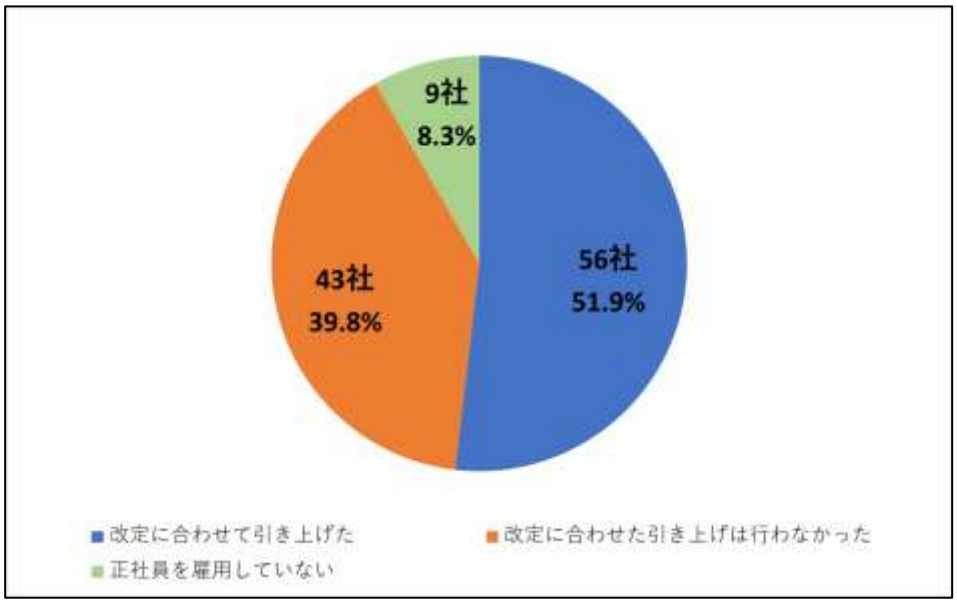
対　応	回答件数
対応したいができていない	16
対応の必要を感じない	12
商品、サービスの値上げ	11
販路拡大・売上増加	7
補助金・助成金の活用	4
設備投資による省力化	3
その他	4

※「その他」の回答内容

・４月～７月にかけて値上げしたが、コスト上昇に追い付いていない。

・作業の効率化　　・従業員の削減　　・出勤日数の調整

■ 最低賃金改定に伴う正社員の賃上げ状況



■ 最低賃金改定に対する意見や必要な支援策

○最低賃金を上げるのはいいことかもしれないが、社会保険料や税金を下げて実質的な手取りを増やさないと意味がないと思う。

○上昇するのはいいが、算定が地方中小企業の現状に即していないと思う

○毎年、４月に最低賃金を見込んで引き上げを行っている。

○社会保険料の引き下げを行い、労使ともに負担を削減するべき

○北海道の最低賃金は「札幌市」と「それ以外の地域」で分けてほしい。（他１件）

○燃料価格、材料費が軒並み上昇する中、最低賃金を５％上昇されると経営が成り立たない。

○最低賃金をもっと上げてほしい。

○最低賃金改定をもっと早くアナウンスしてほしい。

○最低賃金を上げるのであれば、扶養範囲の金額も上げてもらわないと働く時間が短くなって人手不足になってしまいます

○学生アルバイトは 7～9 月の期間、試験や帰省の都合で出勤が減り、仕事を覚えるのが困難な状況にある。それでも最低賃金の改定によって時給を上げる必要があるが、財源確保に向けた生産性向上につなげにくい。週 1 出勤と週 3 出勤のアルバイトでは生産性に違いが生じている。

○上がり幅が大きいと感じる

○賃上げや社会保険加入の負担は中小企業にとって限界。パート等を雇うメリットが薄れ、正社員を増やす余力もないため、既存社員の負担増につながる。

○今後、どれくらい賃金が上がっていくのか不安。賃金上昇と従業員の能力向上が比例していないように感じることもある。

○ここ数年の急激な最低賃金引上げにより、若年層従業員の給与待遇差を出せなくなってしまっているが、どの助成金も設備投資・コンサル・システム化等に対してや、対象が非正規・有期雇用労働者に偏っているなど、正社員が多い当社にとっては活用しづらい。現在ではキャリアアップ助成金（正社員化コース）しか使えていない。